

## 国指定天然記念物の新規指定について

### ～古秩父湾の盛衰を物語る地層と化石群、日本初の複合指定へ～

国の文化審議会（会長：宮田亮平）は、平成27年11月20日（金）開催の同審議会文化財分科会の審議・議決を経て、本県に所在する6つの露頭（地層の露出した崖）と県立自然の博物館所蔵の9件の化石標本を天然記念物に指定するよう、文部科学大臣に答申する予定です。

予定どおり答申が行われれば、来年3月頃、国（文部科学大臣）による指定の官報告示が行われる見込みです。複数の露頭と化石群の複合指定は日本初で、これにより、県内では48年ぶりの天然記念物指定となり、県内の国天然記念物は12件（うち地質分野4件）となります。

#### 1 指定名称

古秩父湾堆積層及び海棲哺乳類化石群

#### 2 指定の概要

秩父盆地の地下には、約1,700万年前に誕生し約1,500万年前に姿を消した「古秩父湾」の地層が累積5kmの厚さで堆積し、湾の形成から終焉まで、約200万年間の盛衰が記録されています。この地層は、川沿いなどに露出し、近代以降、地質学上の著名な観察場所として、重要な役割を果たしてきました。

現在の日本列島の原型は、今から約2,000万年前から1,500万年前にかけて形成されたとされており、秩父盆地に分布する古秩父湾の地層と化石群は、日本列島形成当時の日本近海で起こった地殻変動や生物群集及び古環境の変遷を示すものです。

今回、これらの地層の露出状況及び化石標本の産出状態が良好であり、学術上貴重であるとして、国の天然記念物に指定するよう答申が行われました。

#### 3 指定される予定の物件一覧

名称	面積/員数	所在地	所有者
前原の不整合	1411.00 m <sup>2</sup>	秩父郡皆野町大淵	個人
犬木の不整合	422.00 m <sup>2</sup>	秩父郡小鹿野町三山	個人
取方の大露頭	35818.96 m <sup>2</sup>	秩父市下吉田	国・秩父市・個人
ようばけ	107041.00 m <sup>2</sup>	秩父郡小鹿野町長留	個人
大野原パレオパラドキシア化石産地	629.51 m <sup>2</sup>	秩父市大野原	国
新田橋の礫岩露頭	2228.00 m <sup>2</sup>	秩父郡横瀬町横瀬	横瀬町
海棲哺乳類化石群	9件	秩父郡長瀬町長瀬	埼玉県

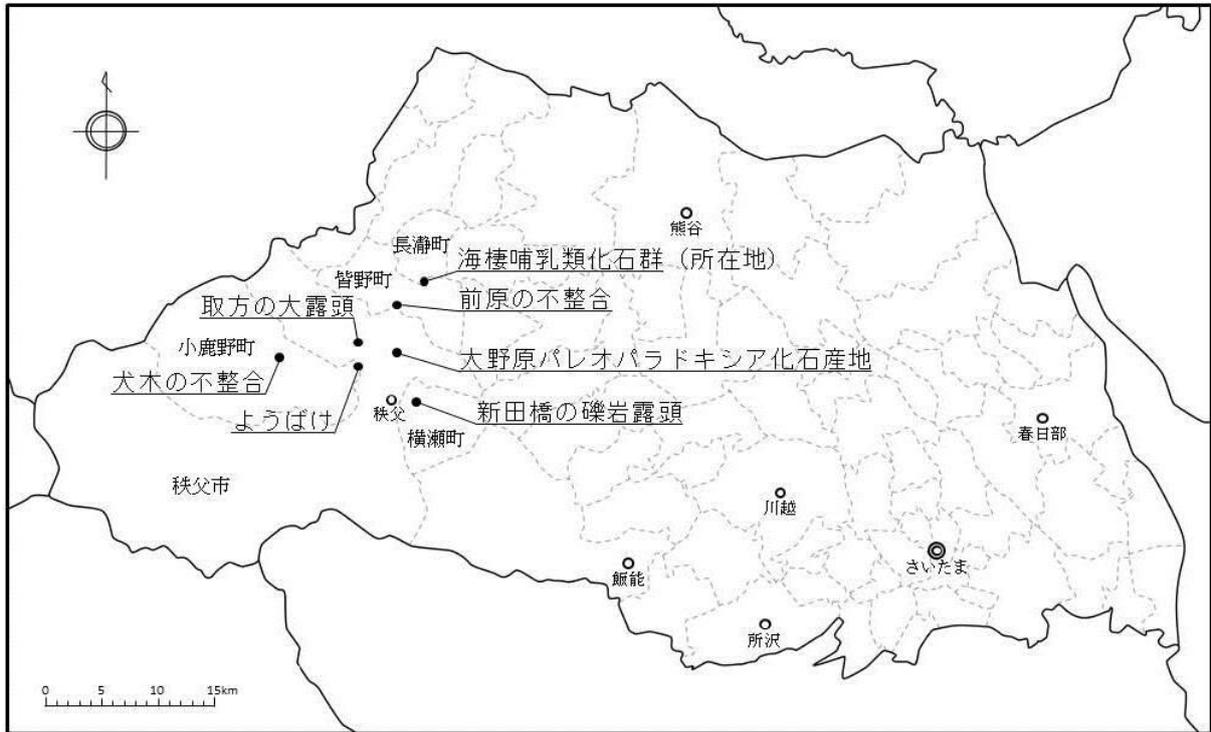
（内訳）秩父市大野原産出パレオパラドキシア骨格化石/小鹿野町般若産出パレオパラドキシア骨格化石/小鹿野町三山産出パレオパラドキシア骨格化石/秩父市寺尾産出パレオパラドキシア頭骨化石/皆野町大淵産出パレオパラドキシア化石/秩父市栃谷産出パレオパラドキシア骨格化石/秩父市大野原産出チチブクジラ骨格化石/秩父市蓼沼産出チチブクジラ骨格化石/小鹿野町般若産出オガノヒゲクジラ頭骨化石

#### 4 指定の特徴

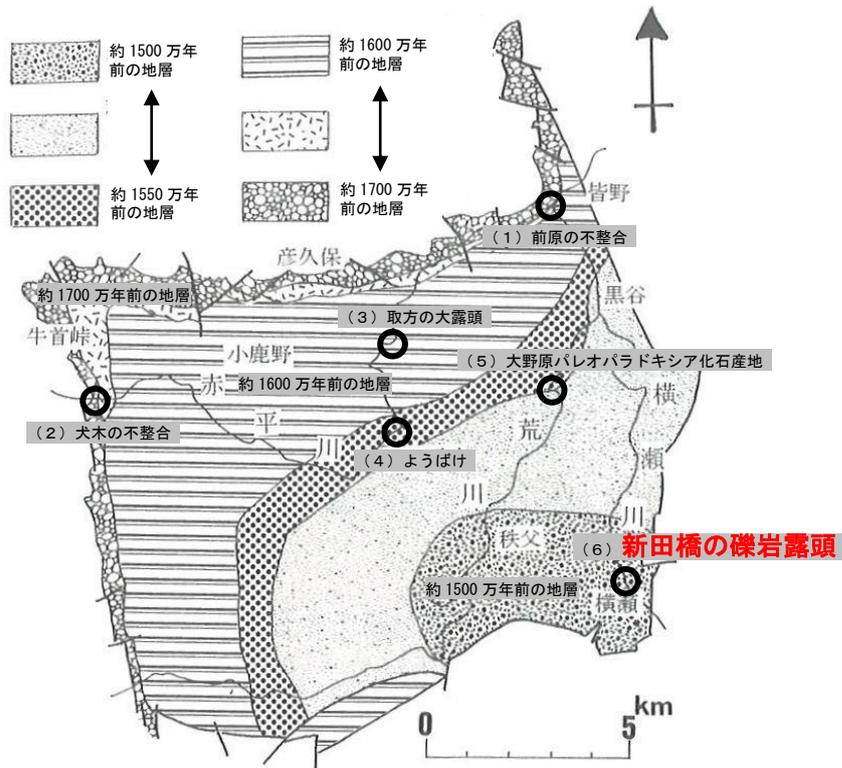
- ある地域の一つの地質時代の「ストーリー」が評価され、複数の露頭と化石群がセットで指定されるのは、全国で初めてのことです。
- 秩父には、明治以降 130 年に及ぶ地質学の歴史があり、長年にわたり、秩父盆地の露頭や堆積層、化石に関する研究が重ねられてきました。また、化石標本も散逸せず地元の博物館に収蔵され、それらが改めて「古秩父湾」盛衰の物語に体系的に整理され、今回の指定に繋がりました。
- 複数の化石が、当時の多様な生物群集を代表するものとして「群」として指定されるのは、全国で初めてのことです。
- 恐竜絶滅後、哺乳類が繁栄していった地質時代「<sup>しんせいだい</sup>新生代」の化石として、全国で初めての指定です。哺乳類化石の指定も初めてのことです。(動物化石としては、既に中生代の海棲爬虫類(魚竜)化石が 2 件指定されており、国内 3 例目になります)。
- 県内では、昭和 43 年の「<sup>へいりんじけいだりん</sup>平林寺境内林」(新座市)指定以来、48 年振りの国指定天然記念物誕生となります。

※ 詳しいお問い合わせ先	県立自然の博物館	0494-66-0407
	秩父市教育委員会	0494-22-2481
	小鹿野町教育委員会	0494-75-0063
	長瀬町教育委員会	0494-66-3113
	皆野町教育委員会	0494-62-4563
	横瀬町教育委員会	0494-25-0118

## 古秩父湾の盛衰と各指定物件の概要について



指定地の位置図



秩父盆地の地層と指定地の位置図

## (1) 古秩父湾の誕生

## 「前原の不整合」、「犬木の不整合」

約 1,700 万年前、新生代新第三紀中新世、秩父盆地付近は東に開いた「古秩父湾」を形成していた。

「前原の不整合」（皆野町）、「犬木の不整合」（小鹿野町）では、秩父の山々を形作っている古生代・中生代の古い地層の上に、新生代の古秩父湾の地層が堆積しはじめた証拠を観察することができる。

この時代の地層から、パレオパラドキシア皆野標本・三山標本などが産出しており、誕生間もない古秩父湾に多くの海棲哺乳類が進出したことを示している。



約 1700 万年前の古秩父湾



前原の不整合（皆野町）



犬木の不整合（小鹿野町）

## (2) 深い海の時代

## 「取方の大露頭」

約 1,600 万年前、関東山地全域の沈降に伴い、古秩父湾は深海の時代を迎える。

「取方の大露頭」（秩父市）は、この時代の地層を観察できる高さ約 50m、幅約 800m に及ぶ大露頭。砂岩と泥岩が交互に重なった地層は、浅海域から深海域に土砂が供給されて堆積したことを示している。

深海のため、大型化石はほとんど発見されていない。



約 1600 万年前の古秩父湾



取方の大露頭の砂泥互層（秩父市）



取方の大露頭（秩父市）

### (3) 多くの生物を育んだ浅い海の時代

#### 「ようばけ」、<sup>おおのほら</sup>大野原<sup>かせきさんち</sup>パレオパラドキシア化石産地

約 1,550 万年前、古秩父湾は再び浅海となり、多くの海棲哺乳類が繁栄する。この時代の地層からは、数多くの重要化石が産出している。

「ようばけ」(小鹿野町)は、この時代の地層を観察できる高さ約 100m、幅約 400m の大露頭。大正 5 年、盛岡高等農林学校 2 年次の宮沢賢治が地質巡検で訪れたともいわれている。「大野原パレオパラドキシア化石産地」(秩父市)は、昭和 4 7 年に発見され昭和 5 0 年と 5 2 年に発掘されたパレオパラドキシア大野原標本の産出地で、秩父の化石産地を象徴する露頭。



約 1550 万年前の古秩父湾



大野原パレオパラドキシア化石産地 (秩父市)



ようばけ (小鹿野町)

### (4) 古秩父湾の終焉<sup>しゅうえん</sup>

#### 「新田橋の礫岩露頭」<sup>あらたばし れきがんと</sup>

約 1,500 万年前、東側の隆起が進んで湾が閉ざされ、古秩父湾は終焉を迎える。

「新田橋の礫岩露頭」(横瀬町)では、周辺の陸域から供給された角がとがった礫を含む地層を観察することができる。



約 1500 万年前の古秩父湾



新田橋の礫岩露頭 (横瀬町)

## (5) 海棲哺乳類化石群

古秩父湾堆積層からは、パレオパラドキシア (①～⑥) や鯨類 (⑦～⑨) をはじめ多くの海棲哺乳類化石が産出している。特に、秩父盆地は日本有数のパレオパラドキシア化石産出地であり、日本産出標本の5分の1が報告されている。

これらは、約 200 万年間の古秩父湾の盛衰と古環境を学ぶ上で重要な証拠資料であるとともに、日本列島の創成期、日本の生物相として特徴的な化石記録が揃う、初めての標本群といえる。また、現在の哺乳類の主なグループがほぼ揃いつつあった時代であり、当時の海棲哺乳類動物相をうかがい知る上で、また海棲哺乳類の進化の過程を解明するうえでも、非常に重要な標本群である。



①パレオパラドキシア秩父市大野原産



②小鹿野町般若産



③小鹿野町三山産



④秩父市寺尾産



⑤皆野町大淵産



⑥秩父市栢谷産



⑦チチブクジラ秩父市大野原産



⑧チチブクジラ秩父市蓼沼産



⑨オガノヒゲクジラ小鹿野町般若産



古秩父湾の多様な生物群 (イメージ図)